昭和十年十二月八日（日曜日）　臺灣日日新報　（土曜日）　第一万二千五百七號

臺灣昌行新報（夕刊）

一二月十五日
夕刊定価一個貳銭
社屋新日日臺灣新聞社所在地
臺北市北門町四丁目
電話　編輯局　一四四番
　　印刷工場　一四五番
　　発行所　一四六番
　　販賣部　一四七番
　　広告部　一四八番
　　若槻　野間　前田　人行役
　　印刷　発行

銘酒　楓白鹿

舞臺、豫算總會に移り
政府と政友秘策を練る
兩者の態度如何で波瀾を惹起
あすから一問一答の狙ひ射ち

【東京二十五日發】衆議院の開會は一二十五日午前十時より開かれ、政府の出來るだけ政友會を刺戟しないといふ方針の下に政友會を刺戟しないといふ方針の下に政友會の出席を求めつゝ政府の出席を求めるといふ策戟を執つたため、政友會の床次前相に對する個人問題の追究の如きも一切は發展せずに終つて本會の質問は終了し愈々全會議の中心は一轉して豫算總會に移されるに至つた

【東京二十五日發】衆議院豫算總會は二十六日午前十時三十五分開會、衆議院議長の中心點も三日間に亘る本會議で解決の輪廓を明かにした二十五日は豫算總會に移り各省豫算提出案ホヤであつて政友會は財政通の第一人者大口喜六氏を陣頭に竦り一問一答式の質問戟を展開し、現下政治經濟社會各般の重要問題に關し政務當局の追及は更に深刻を加へ、ふたゝび其の攻防如何に依つては意外の局面を展開することになるやも知れず、延二週間の衆議院の空氣は暫く緊張裡に包まれ、一方政府は豫算の提出に當つて豫算外國庫の負擔となるべき契約を爲すを禁ずる件を一括議題に供し、質疑に入るに先立ち石坂豐一氏（政友）田中實氏（民政）野田卯一氏（國同）岡本一巳氏（第一控室）より參考資料の提出要求あり次で質疑に入り大口喜六氏（政友）本會議に於ける質疑の第一人者として登壇、

生命は
する政策に惑られた議會終結の重壓に入つたが、この日第一日である政友會の狙ひ射ち射撃法を以て政府の牙城に肉薄せんとする事となつたが、今議會の中心問題となるべき豫算總會の跡仕末に關し政友會はじり〳〵と政府を攻め落さんとする策を執るべく政府が之に對し如何なる方策を以つて應ずるかは床次前相の網紀問題に對する

政友會
の追究態度等に關し政友會との間に如何なる祕策がめぐらされるか、或は對ひの暫く所政府對政友會の正面衝突となるか、政友會内部の内紛が擡頭を惹起するが如き結果を來し分裂の機運なきに至るか、議會對會に於ける政府及び政友會の態度如何は政界の動向を決するものとして政界重大の的となつてゐる

【東京二十五日發】政局第二月は兩政友會と政府との間の關係の分岐點をなす豫算總會に移つたので政府は二十四日閣議を開き、その對策を協議した、席上岡田首相を中心に各閣内相、床次前相等合流協力相携つて對策に當ることを申合せたが、尚政府は豫算總會にも關心を持つてゐる、而して本會議の出方に對し與黨の一致を見た、而して豫算總會では豫算總會の仕末、床次前相の五千萬元問題があるので政友會の態度に關し重大關心を拂ひつゝあるが之は政府は勿論政友會をも刺戟せざる樣、非常時豫算は是非とも成立せしめ度いと山崎農相が農村中の政友會との安協方策に關心を持つてゐる、而して本會議の質問に對し岡田首相が宇垣安協方策は豫算總會に對する態度を決定するの必要に迫られ、二月上旬より政府と政友會との交渉が開始されるものと見られてゐるから其の時機が最も重大視され政府政友會兩方の肚の決まる十日前後は關係重大時機に直面するものとして大いに注目されてゐる

一月十日前後に
重大時期に直面せん
山崎農相が妥協工作を畫策

【東京二十五日發】二十四日午後四時より鐵道ホテルに帝佐藤議員會を開き河村徹氏以下十數名參集、河村氏座長席につき會長、副會長の推擧は手續き上略ぼ延期することに決し次いで事業任件に入り主要會務經過報告に次いで會長より鐵道ホテルに帝佐藤議員會を開き河村徹氏以下十數名參集、河村氏座長席につき會長、副會長の推擧は手續き上略ぼ延期することに決し次いで事業任件に入り主要會務經過報告に次いで會長より鐵道ホテルに帝佐藤議員會を開き河村徹氏以下十數名參集、河村氏座長席につき會長、副會長の推擧は手續き上略ぼ延期することに決し次いで事業任件に入り主要會務經過報告に次いで會長より

臺灣亞細亞協會の常任評議員會

齋藤氏質問
機宜を得たものと
政府側でも好感
結論は解散要求を暗示

【東京二十五日發】二十四日の衆議院本會議に於ける齋藤氏の質問戟は政府の施政方針に對する根本的な質問として大いに注目されてゐたが、これに對し廣田首相は極めて簡單な答辯を以て次の如く述べた

自分の考へは豫算總會に於ても述べたいと思ふ、豫算總會は豫算を審議するのが主眼であるから、豫算總會で述べるのが適當であると思ふ、從つて豫算總會に於て述べたいと思ふ

齋藤氏の質問戟は政府の施政方針に對する根本的な質問として大いに注目されてゐたが、これに對し廣田首相は極めて簡單な答辯を以て次の如く述べた

自分の考へは豫算總會に於ても述べたいと思ふ、豫算總會は豫算を審議するのが主眼であるから、豫算總會で述べるのが適當であると思ふ、從つて豫算總會に於て述べたいと思ふ

民政首腦部は同感
現狀打開の決心を促したと

【東京二十五日發】民政黨では二十四日の衆議院本會議に於ける齋藤氏の質問戟は政府の施政方針に對する根本的な質問として大いに注目されてゐたが、これに對し廣田首相は極めて簡單な答辯を以て次の如く述べた

自分の考へは豫算總會に於ても述べたいと思ふ、豫算總會は豫算を審議するのが主眼であるから、豫算總會で述べるのが適當であると思ふ、從つて豫算總會に於て述べたいと思ふ

首相答辯の
『強き決心』の意味
敢て解散も辭せず
閣僚大多數の解釋

【東京二十五日發】二十四日の衆議院本會議に於ける齋藤氏の質問戟は政府の施政方針に對する根本的な質問として大いに注目されてゐたが、これに對し廣田首相は極めて簡單な答辯を以て次の如く述べた

自分の考へは豫算總會に於ても述べたいと思ふ、豫算總會は豫算を審議するのが主眼であるから、豫算總會で述べるのが適當であると思ふ、從つて豫算總會に於て述べたいと思ふ

民政首腦部は同感
現狀打開の決心を促したと

【東京二十五日發】二十四日の衆議院本會議に於ける齋藤氏の質問戟は政府の施政方針に對する根本的な質問として大いに注目されてゐたが、これに對し廣田首相は極めて簡單な答辯を以て次の如く述べた

自分の考へは豫算總會に於ても述べたいと思ふ、豫算總會は豫算を審議するのが主眼であるから、豫算總會で述べるのが適當であると思ふ、從つて豫算總會に於て述べたいと思ふ

首相答辯の
『強き決心』の意味
敢て解散も辭せず
閣僚大多數の解釋

【東京二十五日發】二十四日の衆議院本會議に於ける齋藤氏の質問戟は政府の施政方針に對する根本的な質問として大いに注目されてゐたが、これに對し廣田首相は極めて簡單な答辯を以て次の如く述べた

自分の考へは豫算總會に於ても述べたいと思ふ、豫算總會は豫算を審議するのが主眼であるから、豫算總會で述べるのが適當であると思ふ、從つて豫算總會に於て述べたいと思ふ

兒玉拓相らを招き
臺灣倶樂部の總會
寄附額は一萬五千三百圓

【東京二十五日發】臺灣倶樂部では二十四日午後五時半より丸の内東京會館に於て新年宴會、定期總會、並に臨時總會を開催した、定刻會長兒玉拓相、櫻井、入江兩次官、佐藤參與官、宍戸、杉田兩秘書官、安藤、岡田、中島兩屬事務官、平塚參與官、岡田、中島兩屬事務官、平塚參與官、岡田、中島兩屬事務官、平塚參與官

外蒙古兵が不法射撃
滿洲國軍が應戰
關東軍、公電を待つ

【新京二十四日發】海拉爾よりの情報に依れば外蒙國境ハルハ廟附近において滿洲國軍巡察中二十四日正午外蒙古兵の不法射撃を受けたので自衛上應戰せりと言ふも未だ眞相判明せず、關東軍當局では公電を待ちつつある

ハイラルから應援隊

【新京二十五日發至急電】滿洲國軍發表】一月八日外蒙古兵十數名ハイル附近國境を占領する爲め滿洲國領に侵入し、九日ハルハ・ウルサン、チヤリーズ二河の三角地帶を占領せるに對し奥安北警備隊は一月十四日一部隊をカンジュル廟附近に派遣したが、外蒙古兵の有無を偵察の爲出動せる本田少佐以下十一名が二十四日俄然外蒙古兵の射撃を受け同部隊はこれと應戰中、ハイラルより應援部隊出動した

滿洲國側は重大決意

【新京二十五日發至急電】外蒙古兵の滿洲國領土侵犯及びその挑戰的態度に對し「滿軍」は全部外蒙古兵の不法行爲により起されたもので、その責は全て彼にあり」となし、滿洲國側は國境不安一掃に對し重大決意を固めた

壽の峰から
飽かず御眺望
李王殿下高雄に御著

【臺南廿四日發】二十二、四の兩日を臺南御泊所に御過しの李王殿下には、滯りなく臺南市の觀覽を終へさせられ、二十五日午前九時十分臺南發列車にて高雄へ向はせられ、二十五日午後一時頃高雄へ入港するが、百武第三艦隊司令長官並に陸戰隊司令官等の出迎あり、午後五時頃基隆

親鸞聖人

(106)

去來篇

吉川英治 作

山村耕花畫

大和路へ(三)

それから六條の大路を東へとれると、二人は門に、

「鹽つたなあ。」

といふ聲を繼承した。

北の市場は、日立つて賑つてゐるし、柵楽の門前にある關の家も、平氏の世盛りの頃より、ずつと、數が殖えてゐた。

至る所にさへも、親鸞師や、寶眞師が、人寄せの説法を始めてゐる男が、何か喚いてゐるし、被衣をかぶつて、「風に吹かれてゐるし、被衣をかぶつて、「風に吹かれてゐるし、被衣をかぶつて、「風に吹かれ

猛腳信組總會前空氣
被策動派卅餘名會於某宅

既報成績雖佳。多年爲一部惡性之野心家。煽動黨爭。無得志於不可收拾之紅糊信用組合。其後依新理監事等。努力經營。預金漸集。總會經決定來二十七日上午九時起。開於國道旅館餘興場。其開於會前之空氣。亦一般所欲知也。先是日總會迫期。登出後即有暗中向各方面蒐集委任狀者。一面有傳出被策動派約二十餘名。於去二十五日夜。會於有明町某氏之家。協議欲導自黨於有利內容。未明。如是則總會席上。難保不穩。死蛇活尾。某起訴猶豫者之心事。爲足使人駭愕也。

黃氏提出伺書
官廳態度如何
一般注目之

又該組合代表者。黃元世氏。以就任之前。經與拆被指名諸理事。向組合員大會。證明欲於總會時一齊提出辭表。然以指名於知事。有關於知事之威信。故提出伺書。欲再仰知事之裁案。而所有理監事辭表。會集齊繳呈。受當局種々之勸告及注意云。

配當六分
組合員大損失

又開收組合。本年純益。爲煽爭至於倒閉故。雖純益金。比前年少有二千餘圓。然配當有依然照舊爲能之指名。此種策動。似八分之能力。組合理事之立案。亦當八分。但州當局。則絶令止於六分。雖經廣次陳情折衝。終不見許。如是則組合員所受之損。

殿下于御泊所前
聽演奏臺灣音樂

李王殿下。于二十四日午後二時十七分。安抵億金。更欲活用。且欲助成進出。對岸方面。開各商工業團體。城址。于御休憩所少憩後。台臨陣列室。熱心台物宣傳外。而設立當指導誘掖之任。之勸業協會。目下計畫中。其規約草案。亦經完成。近將召集組業委員會。諮問趣旨後。乃行動誘會員其他。按自新年度開辦。正爲積極整備。據其既成之規約草案。在十年度。主要事業如次。

一、設置基隆物產紹介所（博覽會々期中。設置于同四時六分。歸抵御泊所。晚餐後。于所前廣場（驛前適當之處）。一、基隆聽臺灣音樂。南管十三音北管等。演奏約二十五分間。奉慰旅情。殿下暫時休憩。乞無疲勞之態。

神戶二十四日本社特電。稻圓糯穀昨二月限十二圓三十五錢。三月限四十五錢。五月限六十錢。實地移出商。五月限十二圓六十錢買手稍沈默。三月限十二圓四十錢。五月限五十五錢。下落五錢極度興奮。圓糯買氣冷靜市況閑散。

神戶圓糯冷靜
市況閑散

基隆市籌設
勸業協會
新年度開辦

基隆市。爲市勢發展之一助。對商工業地之夫妻。

市尹勤業課長
出府磋商
就水族館件

基隆市尹。及小松勤業課長兩氏。去二十四日午前十時。出府。至晚歸基。聞其用務。爲對。本秋之始政紀念博。基隆市有水族館分館設置計畫。故欲求督府。暨關係方面承認。而陳情。豫算計上關係上補助金之支出。又二十四日豫定開會之水產組談會。變更于二十五日。即就水族館之件。乘基隆特設館。及博覽會開會之機。欲開全國水產大會等。妥行協議云。

中壢協議會
中壢街協議會。去二十四日午前九時半。開于公會堂。村上街長宣告開會。

村上街長宣告開會。次報告出缺席及其他事。村上街長說明街治概況。豫算編成。凡三十分間。乃入議事。各議員熱心質問。黃有宿舍。增築公學校。設方面委員增設國語講習所改修中興橋等云。

中華稅關
再捕糖船
船貨俱沒收

高雄市旅後町五丁目一二和發公司所有砂糖運搬船金富裕丸（三十噸）。去十九日。船長林啼氏外七名乘組。積載砂糖百五十俵火柴罐頭等若干。由高雄出港。前往澳門。至二十一日。于廈門近海。被中華稅關監視艇發見。載貨及船體。悉被沒收。將情電達船主。損害額約三千圓云。

陳情員晉京中止
因統制案已可決
臺灣要求難望貫徹

此次政府米穀對策。欲對外地米差別待遇。臺灣米意國政府。以一月三日省令。禁止鮪油漬詰輸入。故現所製罐詰。不得輸出須別求新販路也。

柑橘同業組合
創立總會

臺北州柑橘同業組合創立總會。十二月九日午後一時將開於蓬萊閣。組合員及發起人計四十五名。當日欲選舉頭取。審議定款。決議十年度經費豫算及徵收法。組合應負擔之創立費及其償却方法承認。並選舉役員云。

意國禁輸
油漬鮪罐詰

高雄州水產試驗場。製造鮪油漬罐詰。移出意國。開拓水產物新販路。將來有望。不幸遭意大利輸入禁止。以第一回輸出爲最。

齋藤氏所問得機宜
結論不啻要求解散
首相答辯强硬一部重視

東京二十五日電。二十四日。衆議院本會議。齋藤隆夫氏（民政）質問演說。對時局之根本觀念。得其機宜。政府亦好感迎之。齋藤氏詰論。質問如左。

捨論會多數黨。固滿爲政不得。打破現狀。合理的。立憲的。鞏固基礎。而後爲政。爲先決問題。首相有其決心耶。齋藤氏所言。是暗示民政黨側之解散要求。特堪注目。首相答之曰。

余當行之政治。決依行之。首相之此答辯。即表明此後親政友會所出。不必問

促政府決心
民政首腦部
同感稱快

東京二十五日電。民政黨。二十四日齋藤隆夫氏之演說。非完全代表黨首腦部之意見。而爲質問。是氏個人之意見。然稱之爲氏最近大演說。況促政府打開現狀之決心。全然同感。即黨首腦部。所懷强硬意見如左。

反對政府。故與政友會妥協。以妥解此問題。

市況閑散

出府磋商
就水族館件

中壢協議會

中壢街協議會。去二十四日午前九時半。開于公會堂。村上街長宣告開會。次報告出缺席及其他事。村上街長說明街治概況。豫算編成。凡三十分間。乃入議事。各議員熱心質問。黃元世氏。以就任之前。經與拆被指名諸理事。向組合員大會。證明欲於總會時一齊提出辭表。然以指名於知事。有關於知事之威信。故提出伺書。欲再仰知事之裁案。而所有理監事辭表。會集齊繳呈。受當局種々之勸告及注意云。

官廳態度如何
一般注目之

當失前自。稱爲組合員大會當時。其主旨。在於推翻官派之指名。此種策動。似依然繼續。官廳指名任期滿。尚有十分之餘裕云

殿下于御泊所前
聽演奏臺灣音樂

李王殿下。于二十四日午後二時十七分。安抵億金。對岸方面。開各商工業團體。城址。于御休憩所少憩後。台臨陣列室。熱心台物宣傳外。而設立當指導誘掖之任。之勸業協會。目下計畫中。其規約草案。亦經完成。近將召集組業委員會。諮問趣旨後。乃行動誘會員其他。按自新年度開辦。正爲積極整備。據其既成之規約草案。在十年度。主要事業如次。

一、設置基隆物產紹介所（博覽會々期中。設置于同四時六分。歸抵御泊所。晚餐後。于所前廣場（驛前適當之處）。一、基隆聽臺灣音樂。南管十三音北管等。演奏約二十五分間。奉慰旅情。殿下暫時休憩。乞無疲勞之態。

神戶圓糯冷靜
市況閑散

神戶二十四日本社特電。稻圓糯穀昨二月限十二圓三十五錢。三月限四十五錢。五月限六十錢。實地移出商。五月限十二圓六十錢買手稍沈默。三月限十二圓四十錢。五月限五十五錢。下落五錢極度興奮。圓糯買氣冷靜市況閑散。

基隆市籌設
勸業協會
新年度開辦

基隆市。爲市勢發展之一助。對商工業地之夫妻。

齋藤氏所問得機宜
結論不啻要求解散
首相答辯强硬一部重視

東京二十五日電。二十四日。衆議院本會議。齋藤隆夫氏（民政）質問演說。對時局之根本觀念。得其機宜。政府亦好感迎之。齋藤氏詰論。質問如左。

捨論會多數黨。固滿爲政不得。打破現狀。合理的。立憲的。鞏固基礎。而後爲政。爲先決問題。首相有其決心耶。齋藤氏所言。是暗示民政黨側之解散要求。特堪注目。首相答之曰。

余當行之政治。決依行之。首相之此答辯。即表明此後親政友會所出。不必問

促政府決心
民政首腦部
同感稱快

東京二十五日電。民政黨。二十四日齋藤隆夫氏之演說。非完全代表黨首腦部之意見。而爲質問。是氏個人之意見。然稱之爲氏最近大演說。況促政府打開現狀之決心。全然同感。即黨首腦部。所懷强硬意見如左。

反對政府。故與政友會妥協。以妥解此問題。

中市豫算八十六萬餘圓
戶稅割增四萬餘圓
戶稅一圓賦課二圓卅錢

臺中市協議會。二十五、六兩日。開于市會議室。附議十年度豫算。總額八十六萬五千二百三十六圓（合增加若干。爲是歲入經常部。戶稅割增徵約四萬五百圓。而新規事業。建築街有宿舍。增築公學校。設方面委員增設國語講習所改修中興橋等云。

高雄驛賣票室
紛失車票
係被驛手所竊

高雄驛賣票室。自客年六月以來。頻紛失高雄。臺北兩驛間之乘車票。由署司法係搜查中。客年十二月末日。復失去四枚。內二枚發見于臺北驛。其餘由同市新濱町。同驛手李宋。年二十四。以不使用爲理由。請求車票二枚。金額返還。爲是中島部長刑事。中村。林。陳各刑事。疑李所爲。數日前檢舉其人。嚴重查究。始自白于昭和四年一月。勤務該驛爲雜役夫。因生計困難。客年六月二十日午後五時。乘賣車票員不在。潛入室內。竊取車票一枚。在待合室。售一乘客。爾來續行。至本年一月一日前後十七回。計竊取二十二枚。售于一般。又檢舉同人。發見同驛手盧丁財。各有宿舍。增築公學校。建築合會館。築町。于城町道路鋪裝。大和橋架換。外則水源地調查費。計上二千圓。同給水區域擴大二萬七千二百五十圓。市廳舍新營設計調查費一千圓。右當備今後。建設大臺中市。積極的施設。就中傳染病院及家畜女學校。係多年懸案。總工費爲十五萬圓之綜合會館。欲仰州下一般寄附。建設臺中市內。又戶稅一圓。從來賦課二圓四十五錢。來年起。增至三圓三十錢。此在議會席上。有相當論難。然比州下市街庄。或全島都市戶稅割。尚有十分之餘裕云

破壞留置場
三犯逃亡
立張非常線

二十四日午後三時。屏東郡警察課里港分室。留置中重犯。高雄州東港郡林邊庄溪州張神助。年二十六。新竹州苗栗郡銅鑼庄樹林黃進財。年三十。及澎湖廳媽公李春盛。年三十一名共謀。乘監視巡查之隙。破壞監房逃走。同郡警察課。接到急報。即時對全課員。非常召集。而時照會州下各郡署。搜索犯人。

宜蘭鄉軍總會
帝國在鄉軍人宜蘭分會。

去二十日。午前五時半。參拜宜蘭神社。八時在宜蘭公園內忠魂碑。舉行慰靈祭。九時假宜蘭公會堂。開總會會議。十一時。軍事講演。午後一時半開懇親會。六時開家族慰勞會。

鹿港
街協議會

鹿港街第二十九回協議會。去二十四日午前九時半。開于該會議室。出席議員十五名。缺席五名。監督官中。尾州地方課長。中村屬。拔非郡守。外開席高橋警察課長。佐藤宮里兩街庄係員臨席。宣告開會報告事項。次會議錄者名書。指名佳武雄。俊黃榮兩氏。次就街治概況。並豫算編成方針。演說約三十分間。報告議事日程。八年度決算。次就十年度歲入歲出豫算。由陳參與說明後。遂野施文坡施興等氏起。質問市區改正。公設運動利用。消費市新築等。議場終始緊張。均由諸參與詳答辯。午後四時十分。照原案可決確定。次披開郡守訓示。協議會員吉村氏代表敘禮。本年度豫算。十二萬五千七百九十六圓。比去年減少一萬四千四十六圓。大部分充當御築及教育諸費云。

募集金米
鹿港街方面委員助成會

鹿港街方面委員助成會。鑑於窮年末。貧困者。難於度歲。窮年有志。募集寄附。總數目標。得百米六十餘石。現金百四十餘圓。按期限後。臨時配付之方法云。

臺南
小公募生

臺南市昭和十七年四月。小公學校入學新生。現已開始招募。公學舉辦。豫見至二月末日。四月二日起。至昭和四年四月一日出生者。

俄赤衛軍
不法射擊
滿洲軍應戰

新京二十四日電。據海拉爾情報。外蒙國境哈爾哈廟附近。有滿洲國軍巡察中。二十四日正午。爲赤軍不法射擊。即自衛上應戰。但其相本部。關

日滿郵便條約
最後現地協定
廿五六日行

大連二十四日電。日滿郵便條約。來二十五、六兩日在新京。經日本側委員關東局中村遞信局長。大久保總務課長。外二名。與滿洲國交通部郵務局締結。且爲最終的現地協定云

俄赤衛軍
不法射擊
滿洲軍應戰

新京二十四日電。據海拉爾情報。外蒙國境哈爾哈廟附近。有滿洲國軍巡察中。二十四日正午。爲赤軍不法射擊。即自衛上應戰。但其相本部。關東軍當局。正待公電云。

松平山本兩氏
訪英外相

倫敦二十四日電。松平。

自動車故障
乘客無事

蘭陽乘合自動車。去二十三日午後三時頃。羅東至宜蘭。運轉手張某氏。駛至宜蘭街南門大通。王活版所前。突然故障。查其東軍當局。

桃園隧道
補修工事

桃園大圳隧道補修工事。自昭和七年。爲十月二十八日起。由臺北大倉組包辦工事。事業順調。至本年一月十八日工事終了。二十日起。已經通水。十年度工事費二十三萬圓。建坪一千八百坪。豫算八十日間可以完竣云。

自動車故障
乘客無事

蘭陽乘合自動車。去二十三日午後三時頃。羅東至宜蘭。運轉手張某氏。駛至宜蘭街南門大通。王活版所前。突然故障。查其

桃園隧道
補修工事

桃園大圳隧道補修工事。自昭和七年。爲十月二十八日起。由臺北大倉組包辦工事。事業順調。至本年一月十八日工事終了。二十日起。已經通水。十年度工事費二十三萬圓。建坪一千八百坪。豫算八十日間可以完竣云。

俄報非難外相高唱
俄滿國境防備撤退

哈爾賓二十四日電。去十四日。蘇俄飛行機。飛到滿洲國。再三抗議。莫斯科政府。認其事實。二十四日正午。令總領事。嚴重抗議。

蘇俄飛行機
飛入滿洲國
派員道歉

莫斯科二十四日電。共產黨機關報普路斯新聞。二十四日社說。評廣田外相在議會之演說。而唱其平和政策。所當歡迎之旨大意如左。

日本對蘇俄。[illegible]政策。蘇俄所最歡迎。廣田外相。對蘇俄三年來之[illegible]。滿洲國境防備擴張。其平和政策。有何關聯。其[illegible]。一部謂[illegible]。

新營深耕犁事件
辯護士會徹底糾彈
欲開講演會發表眞相

人權蹂躪乎。公務妨害乎。就臺南州新營郡之土地改良深耕犁事件。由臺北辯護士爲中心。發。沈三辯護士。先對劉明電氏。概括的取調。侯二十五日。鼓辯護士。由臺北來著。接近問題核心。然而依二十四日調查時半。行政檢束解除。許其歸宅。二十四日。安里警察關係。亦同時調查。問題之中心人物新營郡柳營庄柳。營百七十番地劉明電氏。至二十三日午後七時半。行政檢束解除。許其歸宅。二十四日。安里辯護士爲中心。發。沈三辯護士。先對劉明電氏。就關係農民。概括的取調侯二十五日。鼓辯護士。由臺北來著。接近問題核心。然而依二十四日調查人權蹂躪問題事實。有如左記。故辯護士會。徹底的糾彈。欲於臺北。臺南開演說會。發表眞相。附諸世論。

一、劉明電。立在小作人與當局者間。屬最初奔走之人。故如煽動小作人。絶對無事實。

一、該土地關係小作人。不與承諾。而留置農民到現地。較遞警察官。自無公務妨害。

一、劉明電氏。當時無失

柑橘同業組合
創立總會

臺北州柑橘同業組合創立總會。十二月九日午後一時將開於蓬萊閣。組合員及發起人計四十五名。當日欲選舉頭取。審議定款。決議十年度經費豫算及徵收法。組合應負擔之創立費及其償却方法承認。並選舉役員云。

意國禁輸
油漬鮪罐詰

高雄州水產試驗場。製造鮪油漬罐詰。移出意國。開拓水產物新販路。將來有望。不幸遭意大利輸入禁止。以第一回輸出爲最。

齋藤氏所問得機宜
結論不啻要求解散
首相答辯强硬一部重視

東京二十五日電。二十四日。衆議院本會議。齋藤隆夫氏（民政）質問演說。對時局之根本觀念。得其機宜。政府亦好感迎之。齋藤氏詰論。質問如左。

捨論會多數黨。固滿爲政不得。打破現狀。合理的。立憲的。鞏固基礎。而後爲政。爲先決問題。首相有其決心耶。齋藤氏所言。是暗示民政黨側之解散要求。特堪注目。首相答之曰。

余當行之政治。決依行之。首相之此答辯。即表明此後親政友會所出。不必問

促政府決心
民政首腦部
同感稱快

東京二十五日電。民政黨。二十四日齋藤隆夫氏之演說。非完全代表黨首腦部之意見。而爲質問。是氏個人之意見。然稱之爲氏最近大演說。況促政府打開現狀之決心。全然同感。即黨首腦部。所懷强硬意見如左。

反對政府。故與政友會妥協。以妥解此問題。

中市豫算八十六萬餘圓
戶稅割增四萬餘圓
戶稅一圓賦課二圓卅錢

臺中市協議會。二十五、六兩日。開于市會議室。附議十年度豫算。總額八十六萬五千二百三十六圓（合增加若干。爲是歲入經常部。戶稅割增徵約四萬五百圓。而新規事業。建築街有宿舍。增築公學校。設方面委員增設國語講習所改修中興橋等云。

高雄驛賣票室
紛失車票
係被驛手所竊

高雄驛賣票室。自客年六月以來。頻紛失高雄。臺北兩驛間之乘車票。由署司法係搜查中。客年十二月末日。復失去四枚。內二枚發見于臺北驛。其餘由同市新濱町。同驛手李宋。年二十四。以不使用爲理由。請求車票二枚。金額返還。爲是中島部長刑事。中村。林。陳各刑事。疑李所爲。數日前檢舉其人。嚴重查究。始自白于昭和四年一月。勤務該驛爲雜役夫。因生計困難。客年六月二十日午後五時。乘賣車票員不在。潛入室內。竊取車票一枚。在待合室。售一乘客。爾來續行。至本年一月一日前後十七回。計竊取二十二枚。售于一般。又檢舉同人。發見同驛手盧丁財。各有宿舍。增築公學校。建築合會館。築町。于城町道路鋪裝。大和橋架換。外則水源地調查費。計上二千圓。同給水區域擴大二萬七千二百五十圓。市廳舍新營設計調查費一千圓。右當備今後。建設大臺中市。積極的施設。就中傳染病院及家畜女學校。係多年懸案。總工費爲十五萬圓之綜合會館。欲仰州下一般寄附。建設臺中市內。又戶稅一圓。從來賦課二圓四十五錢。來年起。增至三圓三十錢。此在議會席上。有相當論難。然比州下市街庄。或全島都市戶稅割。尚有十分之餘裕云

破壞留置場
三犯逃亡
立張非常線

二十四日午後三時。屏東郡警察課里港分室。留置中重犯。高雄州東港郡林邊庄溪州張神助。年二十六。新竹州苗栗郡銅鑼庄樹林黃進財。年三十。及澎湖廳媽公李春盛。年三十一名共謀。乘監視巡查之隙。破壞監房逃走。同郡警察課。接到急報。即時對全課員。非常召集。而時照會州下各郡署。搜索犯人。

宜蘭鄉軍總會
帝國在鄉軍人宜蘭分會。

去二十日。午前五時半。參拜宜蘭神社。八時在宜蘭公園內忠魂碑。舉行慰靈祭。九時假宜蘭公會堂。開總會會議。十一時。軍事講演。午後一時半開懇親會。六時開家族慰勞會。

鹿港
街協議會

鹿港街第二十九回協議會。去二十四日午前九時半。開于該會議室。出席議員十五名。缺席五名。監督官中。尾州地方課長。中村屬。拔非郡守。外開席高橋警察課長。佐藤宮里兩街庄係員臨席。宣告開會報告事項。次會議錄者名書。指名佳武雄。俊黃榮兩氏。次就街治概況。並豫算編成方針。演說約三十分間。報告議事日程。八年度決算。次就十年度歲入歲出豫算。由陳參與說明後。遂野施文坡施興等氏起。質問市區改正。公設運動利用。消費市新築等。議場終始緊張。均由諸參與詳答辯。午後四時十分。照原案可決確定。次披開郡守訓示。協議會員吉村氏代表敘禮。本年度豫算。十二萬五千七百九十六圓。比去年減少一萬四千四十六圓。大部分充當御築及教育諸費云。

募集金米
鹿港街方面委員助成會

鹿港街方面委員助成會。鑑於窮年末。貧困者。難於度歲。窮年有志。募集寄附。總數目標。得百米六十餘石。現金百四十餘圓。按期限後。臨時配付之方法云。

臺南
小公募生

臺南市昭和十七年四月。小公學校入學新生。現已開始招募。公學舉辦。豫見至二月末日。四月二日起。至昭和四年四月一日出生者。

俄赤衛軍
不法射擊
滿洲軍應戰

新京二十四日電。據海拉爾情報。外蒙國境哈爾哈廟附近。有滿洲國軍巡察中。二十四日正午。爲赤軍不法射擊。即自衛上應戰。但其相本部。關

日滿郵便條約
最後現地協定
廿五六日行

大連二十四日電。日滿郵便條約。來二十五、六兩日在新京。經日本側委員關東局中村遞信局長。大久保總務課長。外二名。與滿洲國交通部郵務局締結。且爲最終的現地協定云

松平山本兩氏
訪英外相

倫敦二十四日電。松平。

人事

▲新竹郡關西北埔張祺氏。自昨年合格司法科試驗委後。今次爲司法官試補。去二十三日。

▲溪湖商工會總務氏。此回爲硯祭水產事業。去二十三日。到臺南。高雄兩等。視察期間。按三日間。

▲臺北市日新町一丁目金和成蔡發氏之兄蔡鼎氏。於本月十一日午後七時去世。享詩八十一。葬近日中出殯。

▲基隆市協發保甲協會長林德時氏之尊人定四郎氏。以詩梓桑氏爲葬儀委員長。訂來二十七日午前八時。於林家自宅。葬告別式。九時出殯。其葬儀一切照同區會葬慣例改良事項云。

▲員林街商工會長林天賜氏。去二十一日以病逝世。享詩六十一。現停柩在堂。葛儀未定

人事

▲新竹郡關西北埔張祺氏。自昨年合格司法科試驗委後。今次爲司法官試補。去二十三日。

▲溪湖商工會總務氏。此回爲硯祭水產事業。去二十三日。到臺南。高雄兩等。視察期間。按三日間。

▲臺北市日新町一丁目金和成蔡發氏之兄蔡鼎氏。於本月十一日午後七時去世。享詩八十一。葬近日中出殯。

▲基隆市協發保甲協會長林德時氏之尊人定四郎氏。以詩梓桑氏爲葬儀委員長。訂來二十七日午前八時。於林家自宅。葬告別式。九時出殯。其葬儀一切照同區會葬慣例改良事項云。

▲員林街商工會長林天賜氏。去二十一日以病逝世。享詩六十一。現停柩在堂。葛儀未定

公開投稿

自由投稿（不可用匿名）　文藝（不可用匿名）　一般記事（不可用匿名）　讀者之聲（不可用匿名）　內地人（不可用匿名）　本島人（不可用匿名）　官吏（不可用匿名）　軍人（不可用匿名）　教員（不可用匿名）　學生（不可用匿名）　婦人（不可用匿名）　兒童（不可用匿名）

臺北再增設圖書館之必要

臺北　陳鐵厚

夫菩臺文化之向上。暨日益進。臺北市人口稠密冠於全島。惟對讀書界人士之教育機關。設備未周。爲以上。乃獨覺上述。

臺北市讀書人。能與利便者。惟總督府圖書館而已。但總督府圖書館是前採票局之舊趾。非圖書館式之建築故設備不周。收容人數頗少。普通席一百八十。特別席十二。婦人席二十四。總數不過二百十六席。而利用者日有六七百人之多。最近恒至千人。似此利用看超過收容人數之三倍以上。致無數滿員。不待言而自明。其中利用者半數以上。爲原因。對面有林某乘自轉車疾走而來。恐與之衝突。一時閃避不及。致斷車骨。幸也。

損害額五十餘圓。幸乘客十餘名無事。亦不幸中之

公開投稿

自由投稿（不可用匿名）　文藝（不可用匿名）　一般記事（不可用匿名）　讀者之聲（不可用匿名）　內地人（不可用匿名）　本島人（不可用匿名）　官吏（不可用匿名）　軍人（不可用匿名）　教員（不可用匿名）　學生（不可用匿名）　婦人（不可用匿名）　兒童（不可用匿名）

臺北再增設圖書館之必要

臺北　陳鐵厚

夫菩臺文化之向上。暨日益進。臺北市人口稠密冠於全島。惟對讀書界人士之教育機關。設備未周。爲以上。乃獨覺上述。

臺北市讀書人。能與利便者。惟總督府圖書館而已。但總督府圖書館是前採票局之舊趾。非圖書館式之建築故設備不周。收容人數頗少。普通席一百八十。特別席十二。婦人席二十四。總數不過二百十六席。而利用者日有六七百人之多。最近恒至千人。似此利用看超過收容人數之三倍以上。致無數滿員。不待言而自明。其中利用者半數以上。爲原因。對面有林某乘自轉車疾走而來。恐與之衝突。一時閃避不及。致斷車骨。幸也。

損害額五十餘圓。幸乘客十餘名無事。亦不幸中之

商況（廿五日）

米況

正米市況現場

品名	前場	後場
一等	不申	不申
二等	不申	不申
三等	不申	不申

大阪期米前場

限月	前場	後場
先限	二、七九	二、七九
中限	二、八八	二、八八
先限	二、七九	二、七九

東京期米前場

限月	前場	後場
先限	二、七九	二、七九
中限	二、八八	二、八八
先限	二、七九	二、七九

神戶期米前場

限月	前場	後場
先限	二、七九	二、七九
中限	二、八八	二、八八
先限	二、七九	二、七九

株式

大阪短期前場

銘柄	前場	後場
大阪合同	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪瓦斯	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電燈	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇

東京短期前場

銘柄	前場	後場
東京電燈	一、〇一〇	一、〇一〇
東京瓦斯	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇

大阪長期前場

銘柄	前場	後場
大阪合同	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪瓦斯	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電燈	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
大阪電氣	一、〇一〇	一、〇一〇

東京長期前場

銘柄	前場	後場
東京電燈	一、〇一〇	一、〇一〇
東京瓦斯	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇
東京電氣	一、〇一〇	一、〇一〇

公債

東京國債

銘柄	前場	後場
甲號	一、〇一	一、〇一
特別五分利	九九、〇〇	九九、〇〇
第一五分利	九九、〇〇	九九、〇〇
第二五分利	九九、〇〇	九九、〇〇
第三五分利	九九、〇〇	九九、〇〇
第四五分利	九九、〇〇	九九、〇〇
第五五分利	九九、〇〇	九九、〇〇
第六五分利	九九、〇〇	九九、〇〇
第七五分利	九九、〇〇	九九、〇〇
第八五分利	九九、〇〇	九九、〇〇

紐育株式

銘柄	前場	後場
スチール株	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
アナコンダ株	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇

東京銀行會株

銘柄	前場	後場
東京銀行	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇

銀塊

倫敦現物

銘柄	前場	後場
倫敦現物	一、四片八分	一、四片八分
紐育現物	一、二八片八分	一、二八片八分
孟買現物	五、四八分二	五、四八分二

爲替

外國爲替相場

銘柄	前場	後場
米英クロス	四弗八八四分	四弗八八四分
英孟買	一弗二片	一弗二片

神戶對外爲替

銘柄	前場	後場
對米期近	二八弗八分二	二八弗八分二
對米先物	二八弗八分二	二八弗八分二
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇
滿洲國債	九九、〇〇	九九、〇〇

絲況

大阪綿絲

銘柄	前場	後場
大阪綿絲	二、七〇	二、七〇

穀肥

大阪棉花

銘柄	前場	後場
大阪棉花	二、七〇	二、七〇

大阪人絹

銘柄	前場	後場
大阪人絹	八八三	八八三

橫濱生絲

銘柄	前場	後場
橫濱生絲	八、〇〇	八、〇〇

神戶豆粕

銘柄	前場	後場
神戶豆粕	一、〇〇	一、〇〇

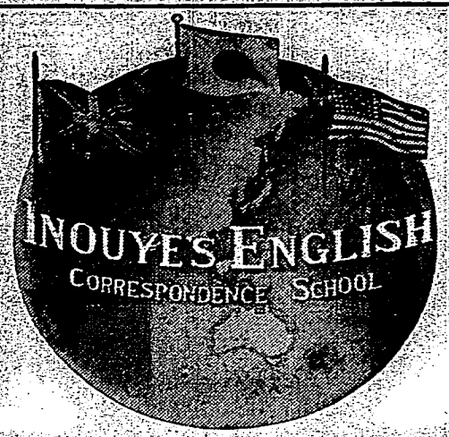
シカゴ小麥

銘柄	前場	後場
シカゴ小麥	一、二七	一、二七

（原稿郵便）（明治一一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十年一月二十六日　臺灣日日新報　（土曜日）　第一万二千五百七號　（一）

臺灣日日新報

日本夕刊共二頁
若菊野町人行社會課
別館市本通所設
此報新日日臺灣
區內十二錢一ヶ月八仕一錢（郵送特別）
區外十五錢二ヶ月八仕一錢（郵送料共）



青少年壯年諸君 1935年からは 「英語」を 武器としやう

日本一の井上英語講義錄を推奨す

好況來る!!

昭和十年は十年來の慶しい好景氣の序曲として來つた、今や「日本一體」の聲は國際的に高まつて來た、今や「日本一體」の聲は國際的に高まつて來た、今や「日本一體」の聲は國際的に高まつて來た

北鐵讓渡交涉成る
新春を飾る平和外交の第一歩

一　露年九月國府、ニレニア會談に於て大體に纏つた懸案の解決に達した北鐵讓渡交渉は、十二日の來電、カズロフスキー滿人次官の結果、細目に關する最後の一致を見、茲に調印に成立し、二月下旬には國府の授取りとなつた。顧れば昭和八年春の解氷を機會に、露が北鐵の讓渡を提議し、同年九月にその讓渡が日滿ソ三國間に正式に附せられて以來、實に一年七ヶ月、其の間幾多の事件があり、幾多の紆餘曲折を經て國際政局の急激な推移すべき傾向がある、固より之を以て直に極東に於ける日ソ間の緊張關係の解消と觀る事は早計に失するが、單なる一懸案問題として其の影響を過小に見積るのも又失當である。

二　由來北鐵は單なる國營鐵道たる性質を有するものではなくて實際ロシアが露に於ける東方政策の最も大いなる經營であり、今日の時に於てとつても容易更なる意義があるのである。何が故に露國の決意をなすに至つたかに就いては今後ソ聯の極東外交方針に關聯する問題として檢討の價値がある、其の最も重要なる動機は滿洲國の獨立に依る滿洲の情勢の變化である。北滿に於て北鐵問題解決策が確立された今日、其の經濟的價値は著しく減少を來し、國内的には一國營企業完成の必要、並業五ヶ年計畫の實現のために外資獲得の必要に迫られた等々の事情が日滿外交に反映したのである。最初の交渉では財源關係で隔靴の觀を見たのであるが國際に亞ぐ北鐵の中樞機關であり、それが滿洲國の完全な支配に歸する事は經濟的意義像めて深いのみならず今回讓渡の客體は鐵道の外に附屬事業の滿洲國に對する國防上、外交上の影響は極めて重大である。

三　滿洲國の將來は北滿の開發にかかる。北鐵包圍線は政策は現立され、今日ソ聯にとつては其の經濟的價値喪滅に至つたとしても何といつても滿洲國にとつて北鐵は北滿の中樞機關であり、それが滿洲國の完全な支配に歸する事は經濟的意義像めて深いのみならず今回讓渡の客體は鐵道の外に附屬事業の滿洲國に對する國防上、外交上の影響は極めて重大である。

四　即ち國防的見地からして北鐵の讓渡は更に一層重要な意義を有する。北鐵は實際上一重要利權の影にかくれた治外法權地帶であり、殆ど滿洲國の司法權の外にある關世界を形成してゐた、されば北鐵ソ聯幹部の滿洲國に不利な策動方至關係の策源地とも言ひ得らる始末の存在は滿洲國が獨立した今日に於ては從て禍根を除去するものなのである。

五　最後に外交的、政治的意義は最も注目を要する滿、ソ間に於ける讓渡交涉の成立に第一にソ聯の事實上に於ける滿洲國承認となり、第二にソ聯の外交が反日滿政策に經結するものではなくて今後に於ける平和的友好關係維持の意圖の表現であり、從つて我が維持の上にも國防上に於ても北鐵讓渡交涉の成立が大なる效果を有するに於ては從て重要なるものである。

我が主張を承認
速かに協定案文作成
カ蘇聯代表、東郷局長を訪問
起草委員の構成も決定

【東京二十五日發】北鐵讓渡交涉の、聯代表カズロフスキー氏と東郷亞局長との會見は二十五日午後二時上り開始されたがカズロフスキー氏は

恩給支拂物價賃定に關する日本側の主張をソ國政府は承認する旨を述べ、協議を重ねた結果、遂に委員會の構成も左の如く決定したので、愈二十八、九の兩日に起草委員を開催するが協定案文の用意は英語と決定した、又起草委員會の構成も左の如く決定した

滿洲國　大橋外交部次長
ソ聯邦　極東部長カズロフスキー
北鐵副理事長クズネクオフ
日本　外務省歐亞局第一課長、西春彦

昨日の衆議院本會議
山道氏(國同)が速射砲的質問
首相以下各相に對し

【東京二十五日發】二十五日の衆議院本會議は二時二十分開會、議院の報告あり、前日に引續き國務大臣の演說に對する質疑を續行、先づ國民同盟の山道襄一氏(國同)登壇、歷代

内閣は擧國的擧國に渡つた我々はこれを憂へ國務院を創設し更に經濟參謀本部の如きものをこれに附置せしめることを提唱せねばならぬ

一、政府は國際平和に關する日本の眞意を國民に徹底せしむる爲速かに對外宣傳機關を設置すべく努力してゐる

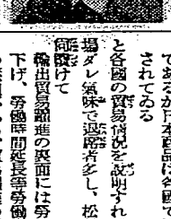
一、政府は國民の實情より成る議會は極力尊重すべきである

廣田外相　我國の外交は總て正義觀に基いて進んで來たが往往誤解されたことは遺憾に堪へぬが漸次內外に理解されて來たことは喜ばしい、私は常に大御心を體して國民の信賴に添ふ樣努力してゐる、若し過日の私の演說が單に外交訓令に終るならば私は上御一人に誓ひ添るのみならず國民の信賴を喪切ることとなる

と夫々答弁し、山道氏より自重を促す一幕があつた

「政府の答弁には滿足出來ぬ」旨述べ質問を打切る

老人は退がし
樞府を改革せよ
松谷與二郎氏の質問



松谷與二郎氏(第一控室)

心を體して國民の信賴に添ふ樣努力してゐる、若し過日の私の演說が單に外交訓令に終るならば私は上御一人に誓ひ添るのみならず國民の信賴を喪切ることとなる

と夫々答弁し山道氏より自重を促す一幕があつた

「政府の答弁には滿足出來ぬ」旨述べ質問を打切る

外交使節の劣勢は
海軍の劣勢以上
蘆田氏(政友)の堂々たる外交質問
外相の「流石に外交官出て一揉め

蘆田均氏(政友登壇)

次で

一、昨年五月のブラジル移民制限法は我移民事業に致命的打撃を與へた、外相はその經過を公表せよ

一、日獨貿商は我外交當局が經濟外交に熱意なきことを示したものである、大公使、商務官、領事の數は英は我國の四倍、アメリカは三二倍、イタリーは七三倍で海軍の劣勢の比ではない政府はこの平和機關の劣勢を何と見るか、最近十數名の大公使を集めて廣田外相の諮問機關を造つたといふが大最重ケ關に大公使が引揚げて來てどうして海外において外交官が活躍出來るか、政府は對外通商事務を總括するため獨立の一省を設ける考へなきや、十年度において外交機關に對し百萬圓を增額したるに對し國防費は九千萬圓を增したる、之で外交が充分出來るか、又支那の疲弊はアメリカの銀政策に依る、日佛提携もその重大なる原因である、アメリカは行商問題で日本の注意を喚起した日本もアメリカに關聯問題で注意喚らせ政府との政情を惡化せざるべく工作の跡もあつたが、今日では公然と排出來る、さすれば政友會は國家のためにやつたのだと自覺してゐるから床次系と一緒に出る、出ないと言ふ樣なことは床次系からも起こらない筈だ

廣田外相　蘆田君が私の考へをそつくりその儘述べられたので流石外交官出身であると感激して申上げたのである無論とは思はぬ

と述べた後

私はブラジル側が優良な移民を制限する等とは想像も出來ぬと言つたのがブラジル側から內政干渉ととられたと聞いたが之が眞個だとすれば私の認識不足のためも知れぬ、然し移民制限法はブラジルの國內事情に基くものであるから將來共ざわざわ緩和される日の來ることを希望してゐる、經濟外交發展の爲つてゐることは認める、日獨貿商は未だ經驗すべき結果に至つて居らぬ、對ソ外交に就ては充分考へてゐる、私はソ聯側に誤解國交調整の爲努力してゐる

町田商相　經濟的優遇を根本的に改革するとの說には同意出來ぬ

之にて松谷氏は質問を打切り

端境期不足補給の
追加供給割當決定
きのふ糖業聯合會で

【東京二十五日發】糖業聯合會では二十五日丸の內同會事務所で協議會を開き本年度における砂糖の追加供給につき協議した結果左の如く直消砂糖參千五萬瓲、精製糖二萬瓲を追加供給して端境期の不足を補ふことに決定した

一、昭和十年三月一日以降第二種直消糖三十五萬瓲增す
各社別當左の如し(單位瓲)

明治製糖	六三、九〇〇
大日本製糖	六五、四〇〇
鹽水港製糖	四四、五〇〇
新高製糖	一七、六〇〇
帝國製糖	三一、八〇〇
昭和製糖	一一、九〇〇
新興製糖	四、六〇〇
臺東製糖	二、七〇〇
南洋興發	一五、一〇〇
合計	二五〇、〇〇〇

同年二月分不足數瓲に對しては調査の上追場の實情に即して適當數量を增す

二、昭和九年精糖製供給數瓲を二十萬瓲增す
各社別當數量左の如し(單位瓲)

臺糖製糖	三四、三〇〇
明治製糖	四七、三〇〇
大日本製糖	六五、五〇〇
鹽水港製糖	二七、〇〇〇
新高製糖	五、五〇〇
中央製糖	二〇、四〇〇
合計	二〇〇、〇〇〇

而して右精製糖の追加供給は即時實施し得ることとなつた

砂糖輸入關稅を
英印政府が引上
國內の糖業驚異的發達

【東京廿五日發本社特電】二十五日某所入閣にされば英領印度政府は來る三月一日より發行砂糖輸入關稅を百ウエイト(百十二封度)に付き九ルピー一アンナを十ルピー一アンナに增額する旨決定した、英領印度は從來砂糖關稅を逸に千九百三十二年及三十三年に增額し二年間に八十萬噸となるに三ヶ年半內に更に八十萬噸となるに三ヶ年半內に更に八十萬噸となるに三ヶ年半內に更

嘉義川添市尹が日本間建設を力説

嘉義市協議會（第一日）

【嘉義電話】嘉義市の昭和十年度豫算協議會は一日は二十五日午前十時七分市會議室で川添市尹嘉義市長、中本地方課長、長谷川地方係長が正午過ぎより説明、各議員の外小西一白井州協議會員の外公學校長職員ら二三と云ふ物しさ市長官舍は二三と云ふ物しさだ、鈴木友德、富山智郎氏缺席會議は午後一時より開會、先づ市尹より豫算提出に當り一般市政の施設方針說明を爲し、次で中本地方課長より說明、午後四時散會、二日午前十時より續會、質疑應答の上、三日午前十時より委員會に附託審議の上、四日午前十時より本會議を開き、議決の上、午後三時閉會の豫定

公設質舖の經營

全島一下手

陳調時氏　公設質舖の經營は當一下手の標本的市政事業の一であるから、之が經營振りは、嘉義市は他の都市に比較して教育費が少くない、然るに八年度の教育費據狀は三千圓程減じてゐる、其へられた豫算は殆ど使つて欲しい、殊に年一部氏　市稅の見積りが少額に失する

徐乃庚氏　遊興施設を行ふことも結構だが年一回でもよろしい動物園の實施して市民の娯樂に供する方針を採つては如何

陳調時氏　公設質舖の經營は當一下手の標本的市政事業の一であるから、之が經營振りは、嘉義市は他の都市に比較して教育費が少くない、然るに八年度の教育費據狀は三千圓程減じてゐる、其へられた豫算は殆ど使つて欲しい、殊に年一部氏　市稅の見積りが少額に失する

徐乃庚氏　私は國府が下手に質問を試み職務遂行とか云ふ事は出來ないが、今年は修正意見でも採用する程の覺悟で臨みたいと思ひ質問を控へて置いたが、豫算の說明を聞くに、とかく無理の點が多大である、これに對する說明を願ひたい

除乃庚氏　私は國府が下手に質問を試み職務遂行とか云ふ事は出來ないが、今年は修正意見でも採用する程の覺悟で臨みたいと思ひ質問を控へて置いたが、豫算の說明を聞くに、とかく無理の點が多大である、これに對する說明を願ひたい

永松完氏　遊興施設を行ふことも結構だが年一回でもよろしい動物園の實施して市民の娯樂に供する方針を採つては如何

永松完氏　遊興施設を行ふことも結構だが年一回でもよろしい動物園の實施して市民の娯樂に供する方針を採つては如何

陳調時氏　公設質舖の經營は當一下手の標本的市政事業の一であるから、之が經營振りは、嘉義市は他の都市に比較して教育費が少くない、然るに八年度の教育費據狀は三千圓程減じてゐる、其へられた豫算は殆ど使つて欲しい、殊に年一部氏　市稅の見積りが少額に失する

徐乃庚

哭くな青春

(109)

三上於菟吉　吉邨二郎畫

新しき日（その六）

姉のせつ子は、敗戦の言辞を、すこしも恥じなかった。

「それも福田さんが、親身でもあれば、まだしもだけれど、おくさまもおありになるのだし、有名な方だけに、真一、ひどんなことになったら、あたしの立場をどうするの？　まさか、そんなことになってなぞやしまいとは思うけれど――」

さっきはうなだれつづけてみたチカリチカリと、親猫のやうなもので魂を突き刺されながら恨り無い吉助の中に、一種不思議な快感さへ覚えてゐるのだった。

――先生、あたし、いおめられてゐますのよ！　郷地のわるいおねえさまから、ひどい目にあつてゐますのよ！　でも、あたし、あなたの為めですもの、じつと辛抱してゐますわ。ちつとも、つらくなんぞありませんわ。

「ねえ、さっきさん、あんた、あたしとおかあさまの前で、はっきりしたこと言つてくれられる？　先生と、我慢してゐるんでせうか？　それとも、妙にえがらツぽい口調で、どこまでも、執念くからんで来るのだつた。

さっきのからだは、石のやうに硬ばつて来て、カーツと頭に血が上るのをどうすることも出来なかつた。

彼女は答へてやりたい。

――何が、つまらないことなのでせう！　戦をすることが、そんなにつまらないことなのでせうか？　あたしはもう大人なのよ。大きな大きな嫂なのよ！

だが、それは、さすがに、喉からは出せなかつた。そのかはりに我がまゝを通されて来て、ボタボタと涙づくのいい瞼の上に垂れたせつ子と、見栄ねたやうに、世間体を気につけたままで言つた。

「せつ子、さっきさん少し疲れてゐるから、お前、何うぺ行つてるておくれでないか？」

「あたしがここにゐるては、御都合かわるいの？」

と、せつ子は、世間の方へチラリと強い視線を投つたが、すぐ、瞼を立てて、

「さっきさん、あんた、末ッ子でおかあさまは、どこまでもかあいくつてならないのだよ。そのおかあさまに、あんまり心配させてはこの上の不幸はないといふものです。」

都々逸調子で、さう言ひ捨てると、彼女は、荒つぽい靴音でとつさに、部屋を出て行つてしまつた。

世間体は、そのうしろすがたを見送るやうにして、

「さっきさん、お姉さんの言ふことをあんまり気にしない方がいいよ。あの人だつて、お前のからだを心配してゐればこそ、いろ〳〵言ふのだから――」

さっきは、うなづいて見せることも出来なかつた。

――お姉さんが、何を心配してゐて下さるものか――あの人ほど、たゞ反感だけで物を言つてゐるなさるんだわ。

世間のわびしげな態に、はじめてさっきは涙線を投つた。

「おかあさまは――何も気になさることはありませんわ。先生は、そんな方ぢやありませんもの！」

「ええ、勿論、先生の人格をかれこれうたがつてなんぞゐないわ。わたしは、唯、お前の一身だけが苦労になるのです。ねえ、さつき、出来ることなら、先生のお仕事の手伝ひとかを、おことわりしてくれまいか？」

世間は、むしろ訴へるやうに言ふのだつた。

ラヂオ　午前の部

【六・二〇】朝の体操（ラヂオ体操）今日のお天気のお知らせ・農業（東京）

【七・二〇】家庭百科問答（ソコヒに就いて公衆の方には生後数ケ月頃からどんなものを与へたらよいでせうか

【一〇・一〇】家庭料理献立と実演（東京）

第一高女金村カネ子）人社会の一シチュー公私境無

【一一・〇〇】日用品小売商店（東京北市西門市場設置、農商市西市場設置）

午後の部

【一二・一九】正午の時報・気象通報・農業北のみ）

【〇・一〇】放送局編成ニュース

【〇・二〇】番組娯楽時間（レコード演奏）歌謡曲一般婦の夕べ（ロアノオ作曲）二ラ・スリンヨール・オフェンバック作曲）ケル・メレ二番に愛を強き給ふなドレトル作曲）四・想ひを残してエマー作曲ルジエンヌ・ボアイエ五・君の胃袋（ドナルドソン作曲）六・ラモーナ（ウエーン作曲）レイトンとジョンストン七・タコネアード（マフイア作曲）カルロス・ガルデル

【〇・五〇】経済市況に引続いて内閣定期船舶旅客時刻と後援列車時刻のお知らせ・鉄道部運輸課設置

【一・〇〇】気象通報（農商のみ）農商物価所設置

夜間の部

【五・〇〇】子供の時間（東京）うたのおけいこ二・子供のテキスト四十九ページ・話岡敏代

【五・二〇】コドモの新聞（東京）村岡花子

【五・二五】開架図書館（東京　中等英語（第二読）横谷輿一

【五・五五】カレント・トピックス（東京）ハロルド・ピーマー

【六・〇〇】子供の時間（東京）第六回うたのおけいこ・深江よね子、第二時間いたづら時計（大内生計作詞・山内俊夫作曲）子供と家庭のタベ（全部大阪より中継）

【自六・二〇至八・〇〇】序曲（大阪ラヂオオーケストラ編曲）△物語「赤いランターン」（作下十嶽子△独唱と合唱（一）独唱（民謡）イ、野風の女房ロ野風の頃ハ、空は雲雀（二）独唱（童謡）イ、星眼り王様ロ、火見櫓（二）独唱）佐伯篤男子、独唱（古賀政男）、管絃楽（大阪ラヂオ・オーケストラ、指揮とピアノ伴奏―宮原禎次）人生こゝろ遊び「世界漫遊」世界を駆ける人々・竹内俊一、岡田倫子、香川鳴、横山美雪、宮武龍男△ラヂオ　コメディー「猫は猫らべからず」林二九次作）小柳久二郎―浪花千栄子、小柳久二郎―浪花千栄

臺灣日日新報　第一万二千五百七號

臺灣への低利資金
三百四十六萬圓の割當決定
各事業主體は至急申込を要す

昭和九年度分として臨に大藏省の豫算決定を受けた第一回發行臺灣縱貫鐵道公債金、臺灣電氣事業及瓦斯事業公債金並第二回發行臺灣電氣事業及瓦斯事業公債金に對する低利資金割當方に付ては曩に發表濟の如くであるが、其の割當決定に付ては左の如く大藏省の豫定を經て總督府より關係方面に通牒があつた旨にて、其の割當決定は來る二月中旬頃總督府より關係方面に通知がある筈である

△利率　臺灣縱貫鐵道公債金四分八厘、臺灣電氣事業公債金四分二厘、臺灣瓦斯事業公債金五分二厘

△償還期限　廿ヶ年以内（五ヶ年以内の據置期間を含む）高利債借換資金二十ヶ年の限度に於て、舊債の償還期限但し舊債の償還期限十年未滿のものは十年迄延長することを得

△貸付期日　普通資金及高利債借換資金は昭和十年三月末日、臨時資金は昭和十年三月末日

△普通地方資金　臺北市小學校建築費一五〇、〇〇〇圓、基隆市同一三、〇〇〇、宜蘭郡同四、〇〇〇、羅東街同三、〇〇〇、蘇澳街同一、五〇〇、臺北州立臺北第一高等女學校建築費一五、〇〇〇、臺北市立第一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北市立第二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北工業學校同一五、〇〇〇、臺北市立第三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第六十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第七十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第八十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第九十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百二十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百三十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百四十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百五十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百六十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百七十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百八十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第一百九十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百二十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百三十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百四十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百五十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百六十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百七十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百八十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第二百九十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百二十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百三十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百四十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百五十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百六十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百七十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百八十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第三百九十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百二十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百三十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百四十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百五十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百六十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百七十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百八十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第四百九十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十四高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十五高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十六高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十七高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十八高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百十九高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百二十高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百二十一高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百二十二高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百二十三高等女學校同一五、〇〇〇、臺北州立臺北第五百二十四高等女

由緒深き國寶物語 (完)

その故事來歴

因縁傳説をさぐる

繪巻の巻

繪巻の國寶は八百二十七點ある。この國寶の繪巻には、奈良朝時代のすばらしい佛畫から鎌倉時代の繪巻物、武者の山水、野山の山水、大雅堂の山水、蕪村の山水、大雅堂のよいものは皆ここに國寶となつてゐる。日本の繪巻の發達はこの國寶によつて明らかに解かれ大體日本の繪畫として今日繪つてゐるものの最も古いは奈良朝時代の佛畫である。國寶、藥師寺の吉祥天などは我が國の最も古い佛畫の中で最も優れた作であるが、その頃は今日と異なつて、畫者などは皆と問題でなかつたと見えてその畫者は不明である。

……

鎌倉時代になつて始めて我が國の繪畫に佛教的な佛畫の外に繪巻物といふやうなものが描かれやうになつたが、この繪巻物といふのは一年一日の活動寫眞のやうなものである。字の無いものでも一日の活動寫眞のやうにその筋が解る。字の無いものでも一日の活動寫眞のやうにその筋が解る。字の無いものでも一日の活動寫眞のやうにその筋が解る

國領侵犯に對して
滿洲國政府が重大決意
外蒙古軍で侵入で

【新京二十五日發】外蒙古軍の越境滿洲國領侵犯に對しては滿洲國政府は頗る重大視し國境の不安一掃の爲重大な決意を固めてゐる

衝突は擴大すまい
わが陸軍當局の觀察

【東京二十五日發】外蒙軍が滿洲國領内に於て滿洲國軍と衝突したことについては二十五日午前十時參謀本部に於ても重大視し出來るだけ速かに事件の眞相調査の爲出動することゝなつた

オーズ附近に派出して來たので滿洲國軍より偵察隊を派遣調査してゐたから同地點に於て衝突したものと見られる、而して滿蒙國境は冬季の爲積雪が不足してゐるであらうから、それが動機となり事態が擴大するやうな事は考へられない

【新京二十五日發】國境紛爭に關し外務當局は二十五日午前十時より滿洲國外交部と會見、左の如く滿洲國側の主張を聽取した

一、昭和九年度軍需品費殘額中より支出の件
二、昭和九年度傳染病豫防費中より支出の件
三、昭和九年度臨時土木費中より支出の件
四、昭和九年度臨時土木費繰越金中より支出の件
五、昭和九年度臨時土木費繰越金中より支出の件
六、定款第五十三條による組合員の除名處分に關するの件
七、理事一名補缺選擧の件

右の中第一項一組合員への貸付け限度は一萬圓に修正可決、第七項理事選擧は勝長壽名を當選人に決定、因みに本期配當は一割である、例年臨時會を以て囑る同組合も本年は實に翻つに午後四時十分終了した

十分より新竹公會堂に於て開催、組合員十二百七十四名中出席者二百八十五名、委任狀提出四百二十二名で例より多數の出席者を得、池湯盛理事長の開會を宣し新原組合長同氣の爲め議事は理事渕水親次郎氏議長となり左記議案を附議した

一、昭和九年度軍業報告、貸借對照表及び剩餘金處分の承認を求むるの件
二、昭和十年度借入金最高限度を金二十萬圓とするの件
三、同年度に於ける一組合員に貸付けすべき最高限度を金七千圓とするの件
四、準備積立て金及び特別積立金を軍業資金に融通するの件
五、餘裕金預入先銀行承認を求むるの件
六、定款第五十三條による組合員の除名處分に關するの件
七、理事一名補缺選擧の件

右の中第一項一組合員への貸付け限度は一萬圓に修正可決、第七項理事選擧は勝長壽名を當選人に決定、因みに本期配當は一割である、例年臨時會を以て囑る同組合も本年は實に翻つに午後四時十分終了した

三十日夜總督より晩餐奉呈
陪席の光榮者

三十日午王殿下御臨北の夜臺北御泊所に於て午後六時より中川總督御晩餐奉呈するが、陪席者は次の通りである

篠田李王職長官、竹村御附武官、金御附武官、寺內軍司令官、飛松副官、小濱內務局長、石堀警務局長、野口州知事

平穩に終る
新竹信組總會

【新竹電話】新竹信用組合第十二回通常總會は二十五日午後一時五

稅制整理の結果に
期待が出來さう
水越氏の質問に吉田參與答ふ
臺北市協議會 第一日

臺北市第二十六回通常市協議會は二十五日午後一時半から樺山小學校の講堂を借りて開催された、新聞十名を加へた二十名の協議員中缺席三名、記者席には各新聞社員、來賓席には小濱內務、野口知事等の顏も見え頗やかである先づ松岡市尹未曾有の大盛會を來した昭和十年度豫算編成の概要を說明して議長席に着き、會議錄署名者として大澤貞吉、淵岡山二氏を議長より指名、議事日程に入る

△提示第一號昭和八年度臺北市歲入出決算△提示第二號同特別會計決算認定歲入出決算

問もなく可決

△諮第一號十年度歲入出豫算の一般會に入る、吉田參與より各款の增減に關き說明あり

金子氏　瓦斯會社との道路使用に對する收入は寄附の形式になつてゐるが如何なる契約が結んであるか、電柱稅でも取る積にすべきであるのか、又將來電力會社に對しても電柱稅を取るか、道路を破壞した場合どちらが修繕するのか、場外取引の防止は如何なる方法に依るや

市尹　しつかりした契約はないが利益の百分の五の寄附を受ける事となつてゐる、然し道路使用料を國庫に支拂つた殘りが市に入つて來る譯であるから現在は少額である、又電柱稅は現在の所取る意思はない

其他各參與より說明

空前の豫算計上
松岡市尹が說明した豫算概要

昌都臺北市の第二十六回通常市協議會は二十五日午後一時半より樺山小學校の講堂を借りて開催、議長席に松岡市尹より提案豫算編成の概要に關き左の說明を爲した

大臺北市としては幾多の事業が遂されてゐるが市勢在の財政上どうする事も出來ぬ、財政の過迫は全般的の問題で殆ど臺北市だけの問題ではない、本市としては昭和九年度市稅整理の趣旨を基礎として、從來の稅制を改正し所得稅附加稅を廢止し、地租營業收益稅を增徵する事に決定、之等の稅制改正に基く收入減を補ふ爲め、市稅の增徵を計つたのであるが、其の他の財源としては、國庫より交付金、補助金、國有財產下賜金、專賣局收入金、臺灣電力會社より納金、臺灣瓦斯會社より納金、臺灣電氣會社より納金、臺灣土地會社より納金、臺灣製糖會社より納金、臺灣鐵道部より納金、臺灣銀行より納金、臺灣商工銀行より納金、臺灣拓殖會社より納金、臺灣倉庫會社より納金、臺灣興業會社より納金、臺灣信託會社より納金、臺灣證券會社より納金、臺灣不動產會社より納金、臺灣建物會社より納金、臺灣土地建物會社より納金、臺灣土地會社より納金、臺灣土地會社より納金、臺灣土地

臺北市協議會第二日

十年度教育費大膨脹

市役所樺山小學校將移

臺北市第四常協議會。二十一日午後一時二十分。開於樺山小學校講堂。指鈴者席。協議會員二十名中出席者二十七名。欠席者伍近藤久郎。忻藤峰治。飯田清二氏。小濱內務局長。野口知事其他特別仿聽。普通仿聽席亦滿員。既開會。松岡市尹就議長席致開會辭。說明：徵算計上內容。歲出之增加。大體爲水公學校敷地買收費六十萬圓。樺山小學校移轉後地址爲適當。以十六萬八千圓。買收電力工場。即現自動車庫。以建樺山小學校堀江町方面亦欲修路。新富町市場新設。創下水溝勸業方面則於東園町森菜園之外。欲新設一處於聖澤神社附近大宮町。市場々外取引禁止後。市場收入增加。博覽會補助聖六萬圓。國立公園候補地。選定大屯山麓。期其成就。補助千五百圓爲期成協會費。衛生方面努力於腸疫防遏。增設殺菌池。污物消毒。制定消費平均料。乘合車新購入十二臺。車數全部百二十七臺。社會事業主事增設一名。說明約一時間。乃由書記報告出缺席者。任命參與員指名會議錄署者。即決澤眞吉。謝唐山兩氏。次入議事。

提示第一號　八年度市歲入歲出決算之件。

提示第二號　八年度市特別會計水道費歲入歲出決算之件。

諮第一號　十年度市歲入歲出豫算之件。

提示第二號別無質問。乃開諮第一號市歲入出豫算第一讀會。吉田參與說明。以避煩雜。三時五分終了。

議長云朗讀。欲省略。金子光太郎氏。問瓦斯會社寄付金幾何。電柱稅欲徵收否。鋪裝道路被電柱破壞其經費由何處支出。場外取引如何防止。議長及樂諒赤木永野各參與答之。安田藤次郎氏又問電柱稅不盡收爲憾。議長答之。陳請波氏問自治制施行之

臺灣日日新報

（第三種郵便物認可）

昭和十年一月二十六日　第一萬二千五百七十七號

臺灣亞細亞會

開評議會

臺灣亞細亞協會。去二十四日午後四時。假鐵道旅館。開常任評議員會。河村啟氏外十數名出席。河村氏就座長席。開推薦官長。副會長。因手續

臺北市諸稅負擔額

年年低減傾向

戶稅稱諸市中最輕者

全島五州。生產最多者惟臺北市。故臺北市民之戶稅負擔額最輕。新竹市戶稅負擔額最重。臺北市外河村啟氏外十數名出席。河村氏就座長席。開推薦官長。副會長。因手續

利澤簡信組

開總代會

年配當六分

既報纔東郡利澤簡信用組合總代會。去二十三日午前十時四十分。開于二結農業倉庫。監督官員室州參事。小野田郡守。園田庶務課長。及金子勸業主任。其他多數列席。林組合長。就議長席敘禮。

李王殿下南巡動靜

駕臨高雄壽山午餐

乘小汽艇巡覽港內

五日午前九時十六分。放百雷二發豫報。同十時十六分。駕臨高雄驛。由堀田交通總長。前導下車。受塔列構內奉迎者敬禮。

昭和乘合自動車

在礁溪庄轢倒少女

兩足折會社親切醫治

宜蘭郡礁溪庄四結人吳約之女年十四。月二十三日午後一時五十分。行到同庄埔大道地點。會有發自宜蘭赴頭之昭和乘合自動車。由運轉手楊玉堂。女車掌連轉疾走而來。阿滿女聞警笛大驚反走右側被其轢倒。兩足斷負傷。陷于人事不省。後會社接報。隨即延醫。後以應急救治。最後郡守。各以園長名。授與賞狀。及交付奬勵金。園長一場訓示後散會。製作品展覽會。自午前九時。至午後三時。隨意觀覽。

臺北市諸稅負擔額

年年低減傾向

戶稅稱諸市中最輕者

全島五州。生產最多者惟臺北市。故臺北市民之戶稅負擔額最輕。新竹市戶稅負擔額最重。臺北市外河村啟氏外十數名出席。河村氏就座長席。開推薦官長。副會長。因手續

臺灣亞細亞會

開評議會

臺灣亞細亞協會。去二十四日午後四時。假鐵道旅館。開常任評議員會。河村啟氏外十數名出席。河村氏就座長席。開推薦官長。副會長。因手續

時評

○

民政一面仍與政友提携。一面安求政府解散。爲已計與爲非常時大局計。果何擇焉。

○

政黨雖云在更生途上。然一黨中有黨。一謀漁人之利。雖或利害相反使然。究不失常人根性矣。

○

廣田外相於議會。堅明平和政策。國際社會。頗見好感。中華既然。蘇俄亦爾。奈後者尚有未釐徹何

○

彰化市內

建照明燈

彰化市內各街衢燈傍。照明燈之建設。自舊臘以來。由東電力主任。市役所。町委員等。協力一致。建設中。就中如驛前。北門通三角公園各通。經已點燈。餘者爲東門町通。亦工事中。按舊曆新正。全部開點。總基數。百五十枝。向來黑暗之處。一齊明朗。頗呈美觀也。

朴子農庫工場

試運轉

成績甚順調

朴子農會附屬米穀調製工場。受督府及臺南州農會補助。順調進行中。日前告竣。去二十四日午前十

買黃色煙葉

改正價格

務使產優良品

督府專賣局。爲期島內黃色葉煙草品質向上。決定改正賠償價格。按十年期起實施。依改正規定。對品質優秀者。極力優遇。該等級自特等至七等。特等一瓩賠償價格。一圓七十錢。優等一圓四十六錢。二等一圓二十四錢。三等八十四錢。四等六十六錢。五等四十八錢。六等十六錢。七等十錢。比從前優等多十六錢。七等反減三十四錢。若依改正規定。該等級自特等至三等。得多受賠償金三等以下者。賠償金漸減。故耕作者。若不關心照顧必陷于耕作難。爲是專賣當局。基于改正趣旨。雖費多大犧牲。對耕作者極力指導奬勵之。務使生產優秀品云。

煙槍不繳官

被罰控訴

臺南市田町四八番地周海能。年五十。以養產物爲業。前曉阿美婆。後被命令諸人各高舉其手。而加以鞭打。四人俱各負傷。比許全氏聞知。馳往該所亦被所拒。據聞酷打原因。係許氏。隣近。有朴姓者寄居其間。朴有婦。會被來二十六日午後一時起。纂於金山公學校講堂。式後。講開國語演習會。修了者各處有五十名云。

肥料購買

昭和十年第二期水稻。其他施用之肥料。共同購買。依左記方法申請。

▲申請期間。限至昭和十年二月十八日。即舊曆一月十五日。

▲購買肥料。大豆粕。過燐酸石灰。安全肥料。硫酸安母呢亞。硫酸加里。

豐原

信組總會

豐原信用組合。定來二十七日午ノ九時起。在豐原庄。開第十四回通常總會。本期議事中除應有而有者而外。依定款變更。即總代會設置。及役員退職給與規程制定。特別積立金一部處分。農村啓年指導所增附金川途變更。奬學基金用途變更。豐ヶ女公學校附金。醫事及信用評定委員補缺選舉件。

鹽頓校庭

鹽ヶ女子公學校。自去年十一月。移轉新校舍以來。諸女生之服裝。及校內外之施設。皆極整觀。惟六千餘坪之校庭。至見海嘯山崎校長。特設簡易國語演習會。修了者各處有五十名云。

新店協議會

庄協議會

文山郡新店庄協議會。去二十四日午前九時。開於役場樓上會議室。有吉田郡守部屬。務課長。中島街庄主任等臨席。首由議長村田庄長。奉讀國民精神作興詔書。報告參與員氏名。及議員出席十五名。缺員一名。缺席一名。會議錄署名者。指名舉。庄長說明管內概況。及豫算方針。入議事日程。第一款役場費無事通過。廖鐫恩陳鳥龍氏希望增點外燈。野津氏。就小學校舍質問。蘇海水氏。提議計上上級生徒ヶ地修學旅行費。張粒氏質問。大坪林公學校。借地料等。次閉于

彰化市內

建照明燈

彰化市內各街衢燈傍。照明燈之建設。自舊臘以來。由東電力主任。市役所。町委員等。協力一致。建設中。就中如驛前。北門通三角公園各通。經已點燈。餘者爲東門町通。亦工事中。按舊曆新正。全部開點。總基數。百五十枝。向來黑暗之處。一齊明朗。頗呈美觀也。

南市許某家男女數名

被巡查無故痛打

主人大憤擬將出訴

臺南市臺町二丁目五一番地。許全氏家。去十九朝五ヶ半。及傭婦葉氏氣。年不知何故。遽有明治町派出所中山外二巡查到臨。將許弟婦劉林氏勤治。年四十。及傭婦葉氏氣。年五十。職工陳鐵。年二十二。陳新求年二十四。外數名。悉召往派出所。旋拘入於隣室保甲事務所。

昭和乘合自動車

在礁溪庄轢倒少女

兩足折會社親切醫治

宜蘭郡礁溪庄四結人吳約之女年十四。月二十三日午後一時五十分。行到同庄埔大道地點。會有發自宜蘭赴頭之昭和乘合自動車。由運轉手楊玉堂。女車掌連轉疾走而來。阿滿女聞警笛大驚反走右側被其轢倒。兩足斷負傷。陷于人事不省。後會社接報。隨即延醫。後以應急救治。最後郡守。各以園長名。授與賞狀。及交付奬勵金。園長一場訓示後散會。製作品展覽會。自午前九時。至午後三時。隨意觀覽。

基隆同風會

議決施米

及風俗改良

基隆同風會。去三十三日午後二時。假當會々館。開役員會。協議左記事項。一舊曆年末施米件。依前例由本會與社會事業助成會及方委等共同主催。本會役員極力援助。希望市民踴躍寄附。現金或白米不拘。急向方委或保正町委員聲明。

二生活改善件。生活改善。宣徹底實行方法。一任會長指名委員若干名以研究之而各役員意見。欲將會則改正。置風俗改良部。及其他各部。而設部長及委員。專心擔務。以外數件可決。五時散會。

家庭製品展

研究發表

于廿六七日

雞東郡下小公學校職員。及男女青年團員家庭製作品展覽會。竝青年團員一人一研究發表會。訂來二十六七兩日。開于雞東公學校講堂。初日。午前十時。先舉郡教育會總會。午後一時至四時。陳列學校職員及青年團員製作品

瀨野中尉

外一名戰死

下士重傷一

二十五日新京至急報。奧外蒙古兵交戰結果。瀨野中尉及兵一名戰死。下士官一名重傷。

二十五日新京至急報。滿洲國軍發表。一月八日。外蒙古兵十數名。因占有部派遣于簡喬爾附近。侵入本田少佐以下十一名。二十四日。依然受外蒙古兵

外蒙古兵侵滿洲

射擊滿洲國警備軍

與本田部隊交戰中

二十五日新京至急報。滿洲國軍發表。一月八日。外蒙古兵十數名。因占有部派遣于簡喬爾附近。侵入本田少佐以下十一名。二十四日。依然受外蒙古兵之有無。以偵察外蒙古兵之有無。

爲一掃國境不安

滿洲國重大決意

二十五日新京至急報。外蒙兵之侵犯滿洲國領土。及其挑戰的態度。以該事件。全出于外蒙一邊之不法行爲。依依于彼。

滿洲國一邊。對一事甚境不安。已定重大決意。

會商用語問題

我國主張用日語

會商延至問題解決

二十五日神戶本社特電。豫定自二十五日。于神戶開會之日滿海運會商。就用語問題。荷蘭一邊。以會談不妨使用日本語。而作成文書用語。主張使用英語。日本一邊。極力主張日英兩國語。爲是會商延期至用語問題解決。

長岡代表參內

恭候聖安

竝奉答下問

二十五日東京電。前項歸朝日蘭會商首席代表長岡

英國驅逐艦

定購九隻

二十五日東京電。據海軍省接到情報。英國海軍。屬于千九百三十四年度計畫之經船中。擴張驅逐經一隻。驅逐艦八隻。于昨年十一月。對民間會社定購。頗爲軍略上及造船工

瀨野中尉

外一名戰死

下士重傷一

二十五日新京至急報。奧外蒙古兵交戰結果。瀨野中尉及兵一名戰死。下士官一名重傷。

二十五日新京至急報。滿洲國軍發表。一月八日。外蒙古兵十數名。因占有部派遣于簡喬爾附近。侵入本田少佐以下十一名。二十四日。依然受外蒙古兵之有無。以偵察外蒙古兵之有無。

外蒙古兵侵滿洲

射擊滿洲國警備軍

與本田部隊交戰中

二十五日新京至急報。滿洲國軍發表。一月八日。外蒙古兵十數名。因占有部派遣于簡喬爾附近。侵入本田少佐以下十一名。二十四日。依然受外蒙古兵之有無。以偵察外蒙古兵之有無。

僅存外廓

內部全燒

保險百五萬圓

二十五日大阪電。寶塚大劇場火災。鐵筋混凝土五階。同劇場內部全燒。僅存外廓。十時半火熄。出火爲早朝。雖無死傷者。而損害數十萬圓。同劇場于去

爲一掃國境不安

滿洲國重大決意

二十五日新京至急報。外蒙兵之侵犯滿洲國領土。及其挑戰的態度。以該事件。全出于外蒙一邊之不法行爲。依依于彼。

滿洲國一邊。對一事甚境不安。已定重大決意。

會商用語問題

我國主張用日語

會商延至問題解決

二十五日神戶本社特電。豫定自二十五日。于神戶開會之日滿海運會商。就用語問題。荷蘭一邊。以會談不妨使用日本語。而作成文書用語。主張使用英語。日本一邊。極力主張日英兩國語。爲是會商延期至用語問題解決。

長岡代表參內

恭候聖安

竝奉答下問

二十五日東京電。前項歸朝日蘭會商首席代表長岡

英國驅逐艦

定購九隻

二十五日東京電。據海軍省接到情報。英國海軍。屬于千九百三十四年度計畫之經船中。擴張驅逐經一隻。驅逐艦八隻。于昨年十一月。對民間會社定購。頗爲軍略上及造船工

僅存外廓

內部全燒

保險百五萬圓

二十五日大阪電。寶塚大劇場火災。鐵筋混凝土五階。同劇場內部全燒。僅存外廓。十時半火熄。出火爲早朝。雖無死傷者。而損害數十萬圓。同劇場于去

瀨野中尉

外一名戰死

下士重傷一

二十五日新京至急報。奧外蒙古兵交戰結果。瀨野中尉及兵一名戰死。下士官一名重傷。

二十五日新京至急報。滿洲國軍發表。一月八日。外蒙古兵十數名。因占有部派遣于簡喬爾附近。侵入本田少佐以下十一名。二十四日。依然受外蒙古兵之有無。以偵察外蒙古兵之有無。

外蒙古兵侵滿洲

射擊滿洲國警備軍

與本田部隊交戰中

二十五日新京至急報。滿洲國軍發表。一月八日。外蒙古兵十數名。因占有部派遣于簡喬爾附近。侵入本田少佐以下十一名。二十四日。依然受外蒙古兵之有無。以偵察外蒙古兵之有無。

僅存外廓

內部全燒

保險百五萬圓

二十五日大阪電。寶塚大劇場火災。鐵筋混凝土五階。同劇場內部全燒。僅存外廓。十時半火熄。出火爲早朝。雖無死傷者。而損害數十萬圓。同劇場于去

爲一掃國境不安

滿洲國重大決意

二十五日新京至急報。外蒙兵之侵犯滿洲國領土。及其挑戰的態度。以該事件。全出于外蒙一邊之不法行爲。依依于彼。

滿洲國一邊。對一事甚境不安。已定重大決意。

會商用語問題

我國主張用日語

會商延至問題解決

二十五日神戶本社特電。豫定自二十五日。于神戶開會之日滿海運會商。就用語問題。荷蘭一邊。以會談不妨使用日本語。而作成文書用語。主張使用英語。日本一邊。極力主張日英兩國語。爲是會商延期至用語問題解決。

長岡代表參內

恭候聖安

竝奉答下問

二十五日東京電。前項歸朝日蘭會商首席代表長岡

英國驅逐艦

定購九隻

二十五日東京電。據海軍省接到情報。英國海軍。屬于千九百三十四年度計畫之經船中。擴張驅逐經一隻。驅逐艦八隻。于昨年十一月。對民間會社定購。頗爲軍略上及造船工

僅存外廓

內部全燒

保險百五萬圓

二十五日大阪電。寶塚大劇場火災。鐵筋混凝土五階。同劇場內部全燒。僅存外廓。十時半火熄。出火爲早朝。雖無死傷者。而損害數十萬圓。同劇場于去

金山

員林

開協議會

郡下出中庄。本年度定時理事協議會。去二十四日午前十時。于同庄役場會議室。有李郡守。宮原務課長。以外數名臨席。議至午三時。將案大部分。原案諮詢。又同郡拔心庄協議會。於二十五日午前九時。在役場內開會。

運動奏效

入集圳水利組合溪湖驛員岩田某。自襲佐藤氏亡後到任以來。與溪湖庄民。意起衝突。毫無協同地方組合員方便。故同庄保正。區委員。庄長其他諸有志等。無向秋永組合長。要求同駐在員轉出組合當局。應一致希望。去二十四日。乃以岩田某。轉出鹿港。而以施港駐在竜野氏。轉入溪湖。爲是同庄民頗滿足。

北港

深耕競技

北港郡農事組合。代議員家使用深耕犁。去二十三日午前九時起。于北港新街前道路西側。開深耕犁競技會。出場者由郡下五街庄。選出二十三名。來賓及各關係者等二十餘名。

感冒安全療法

服イマヅミン最佳

感冒發熱頭痛之源。稍有不慎。則成重患。服藥無劑之風邪藥。以抑一時之熱。爲最危險。以安全有名之イマヅミン服之爲妙。本劑無副作用。凡熱。頭痛。咳。咽喉痛。

詩壇

臺北港北港兩公學校五學年以上

臺北港北港兩公學校五學年以上聯合作文競技會。去二十一日午前九時。開始競技。翌午後一時。終了。參加者。臺北港北港兩校生徒。各百名。計二百名。監督者。兩校訓導。及職員。各二名。計四名。課題。臺北港北港兩校。比較觀。一尺二寸。長一丈。一丈二寸。長一丈。一丈二寸。長一丈。一丈